

# 特別寄稿

## 北九州市立大学「環境技術研究所」機関誌の 発行に寄せて

福島県土木部長

渡辺 宏喜



このたび、貴研究所機関誌「環境 創」の発行に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

福島県は東日本大震災により、地震被害、津波被害、福島第一原発事故による放射線被害、及び放射線汚染に関する風評被害、という四重被害を受けました。現在も県外に避難している約6万人を含め、被災地からの避難者が約16万人となっており、他の被災地とは異なった状況にあります。また、昨年は、三月及び四月の地震災害後も、七月の新潟・福島豪雨、九月の台風15号に見舞われ、災害の発生という点から歴史的な一年となりました。

この間、全国の皆様から多くのご支援と励ましのことばを頂きました。この場を借りましてあらためて御礼申し上げます。

さて、今般設立された「環境技術研究所」は、その中核をなす「災害対策技術研究センター」において、「災害は究極の環境問題であることの認識のもと、これまでに集積してきた災害対策技術を生かし、社会へ貢献」されていくと伺っております。

昨年来、北九州市立大学からは、当県土木部で実施している道路試験除染に関するアドバイスを頂いているところです。今後「災害対策技術研究センター」において、災害調査に関する新たな技術や、放射線に汚染された廃棄物の保管技術等を研究していただくことは、現在、被災から懸命に立ち上がろうとしている当県の復旧・復興に資するばかりでなく、地震や豪雨等の異常気象が発生しやすいわが国にとって非常に有意義であります。

「環境技術研究所」設立のきっかけとなりました東日本大震災の被災地に対する貴学の熱い思いに対し敬意を表しますとともに、被災地が抱えている課題の解決や、今後発生が危惧される大規模災害の被害軽減に関する研究開発が進むことをご期待申し上げます。

結びに、「環境技術研究所」の更なる発展と、関係する皆様のますますの御健勝をお祈りいたしまして、ごあいさつとします。

